

人生の門出に祝福を

〜ふるさとUターンを心に願い〜

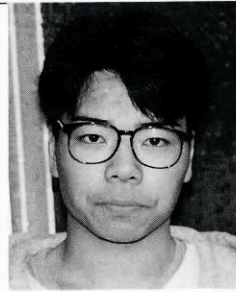
高校生指導連絡協議会

今年も三隅出身の高校生八十六人が三隅を去って行く。進学する者、就職する者、この内何人が三隅に帰ってくるであろうか。若い時は都会にあこがれるであろうが、できることならふるさとへ帰りたい気持ちは強いと思うし、帰ってきてもらいたいと願うのです。

その意味を含めて高校生指導連絡協議会では中学時代の恩師を招き高校生を送る会を毎年実施しております。



高校の卒業はまさに人生の門出であり、故郷を巣立つ最初の体験であり不安と希望に胸ふくらませている時期でもあります。この時期に祝福することがふるさと志向を強く植え付けるものと思われまふ。卒業生のほとんどが転出することになっており人口の減少は加速され高齢化率は益々高まっています。本町では青少年の育成とか後継者の確保とか若者の定住化がさげばれています。その条件整備はなされているでしょうか。？ふるさとで働きたい、Uターンしたいと思っても若者が帰って来る受け皿がないことは事実です。若者が帰って来る生活環境をつくるのが社会、行政、われわれ大人の勤めでありましょう。若者よいつまでもふるさとを愛してほしい。そしていつかはふるさとへ帰って来てほしい……。



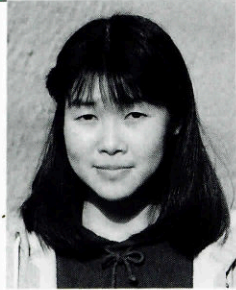
就職にあたり

埴下友明

(小島)

僕は、萩工業高等学校を卒業後、横浜の会社への就職が決まっています。なぜ都心に近い場所を選んだかというと、やっぱり大きな企業は都心部にあるし、それに休日でも楽しむ場所が多くあるからです。僕は、生まれてから十八年間、この三隅町で育ちました。昔は、山や海など自然がいっぱいでした。しかし、若い世代の僕には、なにか物足りません。最近でも、大きなショッピングセンターが出来たものの、いまちピンとこないのです。

ここ数年、山口県の若者の人口が減っています。そのほとんどのは、僕と同じ考えだと思えます。大きな企業もないし、遊園地、その他若者が楽しめる所がないのです。かと言って自然を壊してまでもそれらを作ればいいというのも、間違いのような気がします。どちらにせよ、一方を望めば、もう一方は失われるのです。このことは、とても大事な問題だと、僕は思います。



新たな

未来へ…

大谷裕美

(沢江)

卒業は新しい人生の第一歩です。私達は今、スタートラインから未来に向かって、その一歩を踏み出そうとしています。これから飛び出す社会は、決して楽しい事ばかりではないでしょう。例え幾多の困難に出会っても、それを乗り越え、一歩一歩自分の道を着実に歩んでいかなければなりません。

遠く彼方へ旅立って行きます。これからの人生は自身自身の力で切り開いていくものです。みんな失敗など恐れず、頑張ってください。この世にたった一人しかいない自分、たった一度しかない人生を大切に、強く強く生きていきたいと思えます。

新たな未来へ Lets go、

